

Q：すべての園児が運動好きとは限りません。運動に興味が薄かったり苦手意識のある子でも、授業を通じて「参加する喜び」や「達成感」を得られるかが重要なのではないのでしょうか。

中国で人気のあるパルクールは、そもそも高度な身体能力を要求する競技スポーツです。種目そのものは否定しませんが、私は「2・6・2」の段階別指導を徹底してほしいと考えます。いかがでしょうか？

- ・ 2割の運動センスに恵まれた子はすぐに動作を習得
- ・ 6割の普通の子は練習を重ねて達成可能に
- ・ 2割の苦手な子にも「自分なりの成功体験」を

この考え方は、幼児の体育指導において適していますか？ より良い方向に向けるために、何が必要でしょうか？ 教えてください。(中国幼児体育指導者)

A：貴方の考え方は良いと思います。が、より良い方向に導くためには、必要なことがあります。

以下の視点や配慮を加えることで、「2・6・2」指導はさらに質を高められます：

- ① 運動の「意味づけ」や「物語性」の導入
苦手な子でも夢中になれるように、
 - ・ 「探検ごっこ」「動物になりきる」「お城をのぼる」等、あそびやストーリー仕立てにすると、運動への心理的ハードルが下がり、入りやすくなります。
- ② 成功体験の「定義」を広げるとよい。
「うまくできた」だけでなく、
 - ・ 最後まで参加できた
 - ・ 前より速くなった
 - ・ 友だちと協力できた等といった多様な成功を認めることで、どの子も「認められた」と感じやすくなります。
- ③ 評価は「比較」ではなく「成長ベース」で行うと良いでしょう。
他者との比較ではなく、その子自身の前回との比較(=成長)を意識した声かけ・指導が重要です。
- ④ 保育者自身の観察力・柔軟な対応が不可欠です。
その日の体調・気分・集中力に合わせて、即興的に調整できる引き出しの多さが求められます。

これらの点を加味されると良い指導が展開できるでしょう。頑張ってくださいね。

(前橋 明)